

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「入門(基礎)」、「標準」、「応用(中級)」、「発展(上級)」といった進捗度別科目の提供を視野に入れたカリキュラム体系を設置し、上位科目の履修者を増やし、KG経済学士力を高める。	→各科目(特に、上位科目)の履修者数と平均点。	D	C	B	B	B
2. 初年次導入教育の充実の一環として、学部ライフデザイン科目を設置し、5年後には1・2年生の大半が履修できるようにする。	→学部ライフデザイン科目の設置。および、その履修者数と平均点。	D	C	B	A	A
3. 経済学専門教育における英語による授業の数を、現在の0科目から5年後に2科目にする。	→英語による授業数。および、その履修者数と平均点。	D	D	D	C	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 専門教育部会(現専門教育委員会)での検討結果により専門科目のナンバリングを2012年度入学生より導入し、2013年度より運用した。教務担当副学部長による新入生オリエンテーションや2年生進級時の履修説明会を実施して周知をはかった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上位科目(400番台)を含めた履修状況の検証、また大学院開講科目(350番台)履修時にどれだけナンバリングが考慮材料となったのかについて把握が必要である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 履修状況の検証。上位科目(400番台:大学院科目)履修者はごくわずかであり大学院進学希望者中心となっていること。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ライフデザイン科目のうち経済学部独自科目、キャリアワークショップ(春学期 対象者2年、30名)は三井住友銀行の協力を得て実施、キャリアデザインと仕事(秋学期 対象者1年)は、各回、種々な企業担当者による講義が行われた。(履修者数506名) 2014年度では三井住友銀行、大日本印刷、野村証券・神戸製鋼、インテリジェンスによる4クラスのキャリアワークショップを開講することになった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 1年生や2年生といった低学年のうちから卒業後のキャリアを意識させることができた。現状の課題は、キャリアデザイン科目の運用体制を効率化し、過去の受講生へのヒアリングを実施し改善へつなげることである。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 1年生秋、2年生春、2年生秋といった時間軸の中でどのようなキャリア科目がふさわしいのか、ライフデザイン科目委員会にて検討する。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 英語の科目はなかったが、2013年度より大学院との合併科目により、Japanese and Asian Economics 科目を開講し、また新規に「Topics in Economics (in English)」を開講した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 履修者数、および履修者成績はこれから検証する。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 検証結果による。	☆
		その他	
			☆
備考			☆